

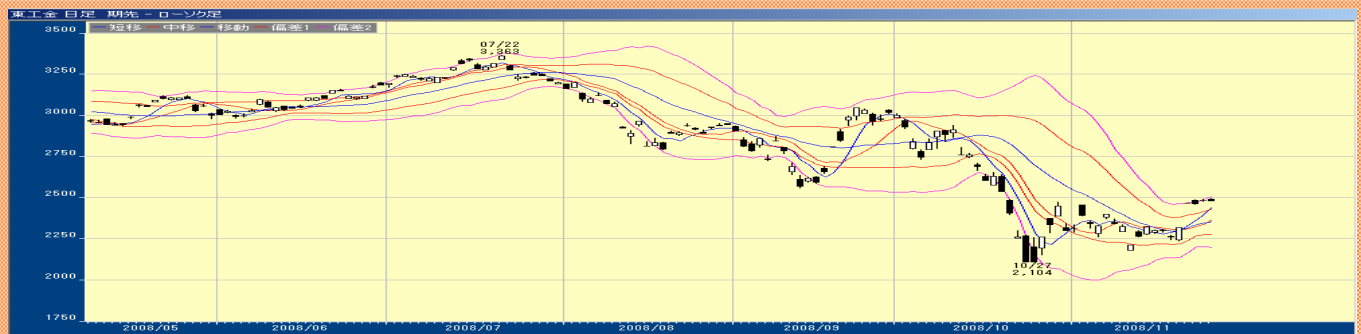
□ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

Pick up News

- 〔注目スケジュール〕
- 12/1 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告
米ISM製造業景況指数
 - 2 ユーロ圏生産者物価指数
 - 3 米ISM非製造業景況指数、米地区連銀経済報告
英中銀 (BOE) 金融政策委員会 (4日まで)
 - 4 欧州中央銀行 (ECB) 理事会
 - 5 米雇用統計

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



チャートは東京金先限日足にボリンジャーバンドを被せたものである。10/30の2472円をブレイクアップした現在は9/11の2555円のレジスタンスを試すかどうか注目される。ボリンジャーバンドの2σに沿ってここ数日推移しており、2σと-2σは本日(11/28)拡散を示現、このまま上値を追えば上昇バンドウォークに突入する可能性もあり、安易な売りは仕掛けたくない。しかしながら、2555円のレジスタンスに上伸を阻まれて現在のサポートライン2472円を下回った場合は素直に上昇ブレイクアウト失敗と判断して再び2100円~2500円の逆バリレンジ取引、所謂”通い”の相場に戻ったと判断すべきだと感じる。2555円をブレイクアップした場合は買い参入、逆に2472円をブレイクダウンした場合は売り方針としたい。

白金は内部要因主導の逆バリ相場の様相が著しい。公表されている取引高表を日々追ってみると、4社の手口が浮びあがる。具体的には三菱F・クレディスイス・スタンダードバンク、そして三井物産である。今週末の当方のセミナーでも急きよ言及する予定であるが11/12~11/26までのデータからは非常に単純な内部要因によって相場が形成されている。今のところは2300円~2700円大きな逆バリを脱せない為、手口を気にしつつ現在値(11/28前引け現在2632円)では売り方針としたい。

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

貴金属相場は金と白金とで明暗を分けた。米シティ・グループの救済劇に加え、米政府による追加金融支援を巡って株式市場は好感した動きを見せているが、金は安全資産として質への逃避の動きが根強く、白金はジョンソン・マッセイ社の強気レポートの効力もすっかり色褪せ上値の重い展開を強いられている。実体経済の早急な回復がイメージしづらい中で、金融商品的な意味合いが薄く、工業需要に左右される白金の相場の値動きの鈍さが目立ってきた印象だ。

目先のポイントは、引き続き金融市場の動向ということになりそうだ。米株式市場ではNYダウが7ヶ月ぶりに4連騰を見せ、投資家の恐怖指数として知られるVIX指数が急低下している。冷え切った投資家マインドもやや改善し、行き過ぎた悲観論は後退、悪化が伝えられる米経済指標に対しても市場は打たれ強さを増している。このような流れは、質への逃避として買われた金に対しては調整圧力となりやすい反面、株式市場の好転によって原油とともに商品が買われやすくなるという側面も持つ。従来の解釈であれば、株高=ドル高、クロス円高となるため、国内相場は金には中立、白金にはややプラスに働くものと思われる。

ただ、株式、為替市場ともに大きなイベントリスクが残るため楽観は出来ない。特に追加利下げが濃厚な12/4のECB(欧州中央銀行)理事会と10月の米雇用統計に注目したい。いずれも円高バイアスが掛かりやすいものと考えられる。一段の戻りを待って売り狙いとするか、押し目を拾うつもりで突っ込みを待つか、両面作戦を取りたい。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。